

令和2年度 滋賀文教短期大学 自己点検・評価報告書への評価書

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

本学は、貴学の以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果を上げている試みや特長的な試みと考えます。

[基準Ⅰ-C-1 自己点検・評価活動等の実施体制を確立し、内部質保証に取り組んでいる。]

[基準Ⅰ-C-2 教育の質を保証している。]

○全教員が関与する自己点検・評価報告書について、中間報告書をふまえて年度末にまとめ、翌年度4月にホームページ上で公表するなど、全学的な実施体制のもと着実に遂行されています。

○PDCA サイクルを活用しながら、達成水準に照らして教育の質を保証するための査定を行う一連の流れが確立されています。

[基準Ⅱ-B-1 学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している。]

[基準Ⅱ-B-2 学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている。]

○遠隔学習の実施のみならず、課題点の洗い出しやアンケートなど成果と課題についての把握の機会を設ける等、学修の質の向上に向けた取り組みがしっかりとなされています。

○ピアノの時間数減にも対応できるよう対策を講じるなど、学習成果の獲得状況を把握し学習支援に努められています。

○G suite (Google Workspace) や Chromebook を利用し積極的に情報通信環境を活用されており、学生アンケートの結果も良好であります。

(2) 向上・充実のための課題

以下に示す事項について、貴学が改善を図り、その教育研究活動などの更なる向上・充実に努めることを期待します。

[基準Ⅱ-A-7 学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている。]

○ 学習成果の獲得状況のアセスメントのために学生の業績の集積 (ポートフォリオ)

の活用も望めます。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望めます。

○該当事項はありません。